

水上一・佐々木のリレーでピンチ脱出 藪田の三塁打が勝利を呼んだ

第20回全国高校女子選抜大会



○三塁打で好機を作った藪田がランナーを、最悪な局面で勝負を決めた。
○三塁打で勝利のチャンスをつかみ、門前の石田主将はライオン魂を打ち上げた。

試合開始直後から、主審権は八代東が握っていた。1回表、先頭打者の辻がセンター前へきれいに打ち返すと、二番・徳水もショートの深いところへの内野安打で出塁。ツーアウトは取られるが、五番・中村が四球で満塁とすると六番・藪田の当たりは強烈な打球となって三塁線

を襲った。しかしこれはサード正面へのライナー。無得点に終わった。続く2回、3回もランナーは出ずものの、門前の先発・水上を打ちきれない。

こんな嫌な展開にも先発・坂田は落ち着いたピッチングを見せた。テンポ良く投げ、門前の打者を打ち取っていく。ランナーを出してもそのほとんどがツーアウトから。大きなピンチは招かない。

対戦的だったのが門前の先発投手水上だった。連戦の疲れからか、調子が上がらない。3回無死のランナーを四球で出したところで実況監督は、水上に代えて佐々木をマウンドに送った。試合後「本当に良く投げた。監督が評価したように、佐々木がこの試合の主役の一人となった。序盤いつ点を取られてもおかしくないほどの劣勢を絶ち切り、流れを徐々に引き寄せたのだ。」

八代東・坂田と門前・佐々木の投げ合いで試合は膠着状態へ入った。ピンチにもこのころいう場面では後続を断ち、両チーム無得点のまま回は進む。

八代東にとって勝敗を左右する場面は両チーム無得点のまま迎えた7回表にやってきた。一死後ショートのエラーでバッター辻が一気に三塁まで進む。

◎投球を制してピンチから飛び出す門前サイン
 ◎門前は、室谷監督のアドバイスのもと、多くのピンチを乗り切った



◎6回、8回と八代東の四番・山田がヒットを放って出塁するが、あと1本が出ずに惜敗
 ◎八代東は7回に二か八かの勝負に出るが失敗。これは本塁タッチアウトとなり、得点することはできなかった



◎惜しくも敗れたが、八代東の坂田投手は6回裏に暴投4と力投した
 ◎2人買八代東



ここで門松監督は賭けに出た。「もしダメでも延長に入ればクリンアップの浜田からの攻撃だから」と考え、ツーナッシンダからエンドランを仕掛けたのである。

三塁ランナー辻はタイムミッド良くスタートを切るが、バッターの徳水は三振。ランナーも三本間に挟まれタッチアウト。最悪の結果になってしまった。

これで勢い付いたのが門前だった。延長8回裏の攻撃はここまで3打席3三振の蘭田から。「とにかく打つことしか考えていなかった」と内角球を思いきり叩くと打球は右中間の真ん中を破った。蘭田は俊足を活かし一気に三塁へ。

八代は続く二人を非かせ満塁策をとり、内野は超前進守備。1点で勝てるが、その1点に苦しんだこの試合を決めたのは、六番・石田だった。やや浅いライントへのフライ。監督の「行け1」の声で蘭田がホームへ滑りこんだ。きわどいタイムミッドはセーフの判定。

門松監督が「ここまで打って勝ち上がってきたのに、この試合はチャンスで打てなかった。インターハイまでに打撃を鍛えていきたい」と語ったように、ここ一番の本が勝敗を分けた試合だった。